



## 先輩職員インタビュー

## 「『おいしい!ふくしま!』応援隊」



畜産

所属

相双農林事務所

農業振興普及部 地域農業推進課

## ● これまでの経歴(所属年度)

H29~H30 農林水産部 環境保全農業課

H31~R 2 相双農林事務所

企画部 地域農林企画課

R 3~ 相双農林事務所

農業振興普及部 地域農業推進課

Q. 現在の仕事内容とそのやりがいについて教えてください。

A. 私は、相双農林事務所の普及指導員として、東日本大震災の影響により農業を一時休止した畜産農家の方が、営農を再開する支援を行っています。避難指示や高齢化等の影響で担い手が減少している当地域では、農業の現場でも ICT 技術を取り入れ、省力的で経済的な経営が求められています。

具体的な業務の一つとして、AI 超音波肉質診断を実施しています。これは、肉質（さしの入り具合）を超音波によって診断するもので、農家の方が、適切な時期を逃さずに牛を出荷できるように支援するものです。

そのようにして診断した牛は、枝肉の質を競う大会に出荷されることもあり、診断どおりの肉質であると判定され、大会で高く評価された際の農家の方々の喜びの声は、とても励みになっています。

Q. 福島県職員として、実現したいこと、目標としていることは何ですか。

A. これからの農業では競争力が重要であり、他の産地に負けないブランド力を持った畜産物の生産が鍵になってくると感じています。畜産農家の方への飼養管理技術支援や AI 超音波肉質診断の活用などにより、県産畜産物の品質とブランド力の向上に努めていきたいと考えています。そして、そうした高い品質を持った県産畜産物を世の中に多く流通させることで、農家の方々の所得の向上に繋げていくことを目標としています。



↑ AI 超音波肉質診断の様子



Q. 本庁と出先の違いについて教えてください。

A. 私が初任地として配属された本庁の農林水産部環境保全農業課では、国や市町村との調整業務や予算の編成等の県全体の施策を動かす業務を担当していました。出先の相双農林事務所での業務は、実際に農家の方々を訪問し、支援を行うことが中心で、より県民の方々に近いところで仕事ができています。



↑ AI 超音波肉質診断を実施した牛の枝肉の確認



↑ 農家の飼養状況確認調査

Q. あなたをキーワードで伝えるとしたら、どんな言葉が思い浮かびますか。

A. 「趣味はうまいもの巡り」「休日は野球」「牛は友達」「助け合いの精神」「自由」

Q. 「牛は友達」について教えてください。

A. 業務では牛に触れる機会が多くあります。実はもともと、牛が苦手でした。牛に触れるうちに愛着が湧いてきて、今では、舐められても突っつかれても平気です。

Q. 「助け合いの精神」について教えてください。

A. 職場には畜産の専門担当だけでなく、作物や野菜、果樹、花きの担当がいます。様々な分野のプロフェッショナルがおり、困ったときには相談しあえる良い仲間です。アフターファイブは皆で遊んだり、趣味の話題で盛り上がったりとストレス発散をしています。仕事を続ける上では仲間の協力が不可欠です。